

「日々の理科」(第2837号) 2022,-5,13
～ 春の小石川植物園 ～
「すこやか ふれあいウォーキング (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

全員が入園したあと、サクラ林の一角に集合をかけ、簡単に説明や安全指導をしたあと、すぐに活動に入った。トイレや水の補給場所も近くにあるので、安心だ。



チェックポイントのカードとシールは、学校出発前に配布しておいたが、親子そろって見るのは、この時が初めてになる。グループは「子ども2人+保護者2人」の4人が基本である。「どの植物から探そうか?」とさっそく相談するグループが多かった。



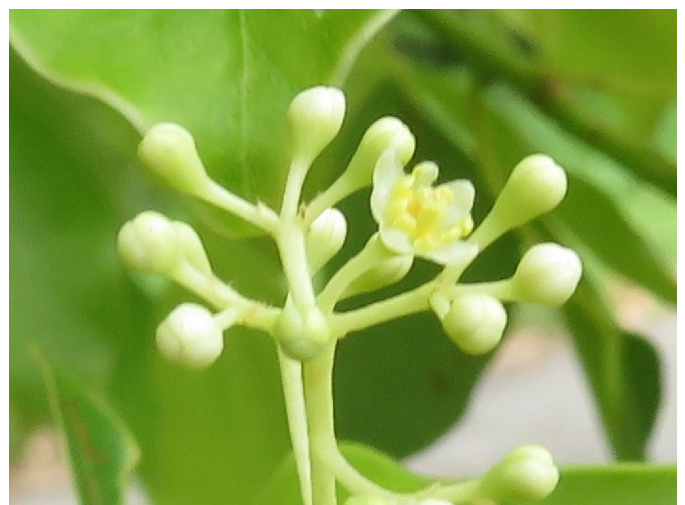
このような活動では「子ども主導」が基本である。保護者はアドバイスはするが、回る経路を決めるのは子どものほうだ。一番大切なのは、地図上の「現在地」だが、それは子どもでは難しい。自分たちの現在地を伝えることが、大人の大切な役割である。



晩春のやわらかい陽射しの中、親子の「ふれあいウォーキング」が始まった。写真は園内の「イロハモミジ並木」だが、この日はたくさんの翼果が見られた。これもチェックポイントにすればよかった。



大きなクスノキの下に、ちょっとした「人だかり」ができています。ここもチェックポイントなのだ。



観察させたかったのは、「クスノキの花」である。シールの写真では大きな花を予想するが、実際は開花しても直径5mm程度の小さな花だ。それもまだ一分咲き程度で、なかなか見つけられなかったようだ。